

～実践報告～ 全国特別支援学校フットサル大会の推進

北海道「教師の道」クラブ幹事長 鈴木 重 男

I 障害種別に関係のない全国特別支援学校生徒のスポーツ競技会の創設

さて、中学生と高校生には全国的な学校のスポーツ組織として、全国中学体育連盟と全国高等学校体育連盟があり、スポーツ庁をはじめとして各自治体やスポーツ団体が後援して、多様なスポーツ種目で広域のスポーツ活動が活発に行われており、全国的視野でのスポーツ活動が生徒の心も体も鍛え上げ、将来の我が国をけん引する力の一つにもなっています。

しかし、特別支援学校には全国規模の広域のスポーツ大会は、公益財団法人日本ライオンズが主催する全国特別支援学校フットサル大会が開始されるまでは、障害種別ごとの「全国盲学校フロアバレーボール大会」や「全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権「もうひとつの高校選手権」、肢体不自由特別支援学校の「ボッチャ甲子園」があるだけです。

鈴木が契約社員である公益財団法人日本ライオンズは、令和3年2021年、障害種別に関係なく特別支援学校で学ぶ生徒の心身の健全な発達を促すとともに、特に自己責任、克己心やフェアプレイの精神を培いつつ、仲間や指導者との交流を通じて、生徒間のコミュニケーション能力を育成し、豊かな心と他人に対する思いやりを育むものとして、全国規模のスポーツ競技会として、全国特別支援学校フットサル大会を創設しました。

II 何故、フットサルの競技会か？

公益財団法人日本ライオンズは、全国規模のスポーツ競技会の種目選定に当たり、男女差や中学部・高等部生徒の発達段階に関係なく、かつ狭い空間でも大きな活動量を得ることができるフットサルに着目しました。

とりわけ、現在、本州では、春から秋にかけての猛烈な暑熱により、特別支援学校では外グラウンドでのスポーツ活動が困難なことが多いことから、全国の特別支援学校に設備されている冷房の効いた体育館や狭い屋内での少人数のスポーツとして、フットサルが望ましいとの結論に至りました。

また、フットサルは、ボール一つで、狭い空

間でも活発な運動を仲間と共に楽しむことができます。特に、空中を飛ぶボールに恐怖感を感じる障がいのある子どもたちが多いことから、軟らかいボールなどを工夫することにより、ボールがぶつかっても怖がることなくゲーム参加できる種目です。さらにフットサルは、3～5人制で、正式ゲームが可能ですので、小規模な特別支援学校でも参加することができる利点があります。このようなことから、公益財団法人日本ライオンズは、フットサル競技での全国大会を創設しました。

III 特別支援学校としての大会理念

公益財団法人日本ライオンズは、大会を開催するにあたり『自立と RESPECT』を理念に掲げて、生徒の卒業後の就労に際しての資質能力の向上に資するように努めています。

1 自立への願い

特別支援学校では、多くの生徒が高等部を卒業した後、実社会に出て就労しています。このことから、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるようにと願い、生徒の自立的行動、主体的判断を尊重する大会を目指し、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を一切禁止することとしています。

したがって、監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、生徒の対戦状況を見守り、生徒の自立的・主体的活動を正確に把握して、ハーフタイム時などでは、穏やかな態度・口調で、生徒の主体的な判断・決定・実行する力を高めるような温かな思いやりのある言葉遣いや働きかけを行うことを重要としています。

2 RESPECT への願い

生徒の多くは、高等部卒業後、実社会に出て就労し、その折、多様な人間関係が予想されず。この場合、他人を思いやる RESPECT(他人を思いやり)の心があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。

したがって、この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判への RESPECT を示す大会を目指しています。

このため、宿泊する宿舎や競技場での行動を通して、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒、審判、大会関係者などには RESPECT を表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な言葉や行動を行うことを重要としています。

IV 全国特別支援学校フットサル大会の経過

1 令和3年2021年度、全国特別支援学校フットサル大会創設記念大会の開催

公益財団法人日本ライオンズは、コロナ感染症が蔓延していた、令和3年2022年11月、全国特別支援学校フットサル大会創設記念全国大会を札幌市で開催として計画しました。

しかし、コロナウイルス感染症がより全国的に拡大したことから、全国9地区の各地区大会の開催を中止して、参加希望校の抽選で各9地区の全国大会出場校を開催する方向で進めましたが、コロナウイルス感染症のより重篤な罹患例が全国的に続発したことから、国の指導を踏まえて、止む無く札幌での創設記念大会を中止しました。この結果、全国特別支援学校フットサル大会創設記念全国大会は、幻の記念大会となったこの大会の北海道代表は、抽選により北海道函館高等支援学校が参加するこになり、綿密な練習計画を立てて、準備していました。

2 令和4年2022年度、第1回全国特別支援学校フットサル大会札幌大会

第1回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会には、全国で70校の特別支援学校が出場しました。

北海道地区大会には、帯広養護学校、高等聾学校、小樽高等支援学校、市立札幌みなみの杜高等支援学校、千歳高等支援学校、札幌あいの里高等支援学校、市立札幌豊明高等支援学校、白樺高等養護学校、新篠津高等養護学校、札幌高等養護学校、中札内高等養護学校、今金高等養護学校、伊達高等養護学校、函館高等支援学校、紋別高等養護学校が出場し、中札内高等養護学校が優勝しました。

第1回の全国大会は、関東地区から2校が出場し、他の8地区大会を勝ち抜いた全10校で全国の覇権が競われました。優勝校は大阪府立なにわ高等支援学校、準優勝が島根県立松江養護学校乃木校舎、3位が鹿児島県立鹿児島高

等特別支援学校、4位が北海道中札内高等支援学校、5位が愛知県立名古屋聾学校、6位が千葉県立特別支援学校流山高等学園、7位が東京都立羽村特別支援学校、8位が香川県立香川東部養護学校、9位が石川県立いしかわ特別支援学校、10位 秋田県立ゆり支援学校でした。

3 令和5年2023年度、第2回全国特別支援学校フットサル大会福岡大会

第2回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会には、全国で111校の特別支援学校が出場し、全国9地区で各地区代表の決定戦が開催されました。

北海道地区大会には、星置養護学校ほしみ学園、高等聾学校、釧路鶴野支援学校、小平高等養護学校、伊達高等養護学校、紋別高等養護学校、今金高等養護学校、函館高等支援学校、中札内高等養護学校、白樺高等養護学校、札幌あいの里高等支援学校、小樽高等支援学校、新篠津高等養護学校、札幌高等養護学校、市立札幌みなみの杜高等支援学校、千歳高等支援学校、市立札幌豊明高等支援学校、臺灣台北市立啓聡学校、臺灣台南大学附属台南啓聡学校も出場、市立札幌みなみの杜高等支援学校が優勝し、全国大会に出場しました。

全国大会は、関東地区から2校が出場し、各地区大会を勝ち抜いた全10校に、地元枠で福岡県代表と台風で九州地区大会に出場できなかった沖縄県代表の全12校が出場しました。

優勝は栃木県立宇都宮青葉高等学園、準優勝が奈良県立高等養護学校、3位が日野央高等特別支援学校、4位が愛知県立名古屋聾学校、5位が島根県立松江養護学校乃木校舎、6位が大分県立さくらの杜高等支援学校、7位が福岡県立特別支援学校福岡高等学園、8位が富山県立富山高等支援学校、9位が沖縄県立中部農林高等支援学校、10位が札幌市立みなみの杜高等支援学校、11位が宮城県立小松島支援学校、12位が香川県立香川東部養護学校でした。

